

Title	人間科学専攻をふりかえる：10年間の活動抄録
Sub Title	
Author	宮坂, 敬造 南, 隆男
Publisher	三田哲學會
Publication year	1991
Jtitle	哲學 No.92 (1991. 4) ,p.55- 103
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	文学部創設百周年記念論文集II
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00150430-00000092-0055

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

人間科学専攻をふりかえる

—10年間の活動抄録—

文学部人間科学専攻（宮坂敬造*・南隆男**）

〔0〕

文学部開設100年時の回顧のひそみにならって、われわれ文学部人間科学専攻を、設立以来の10年間の活動記録（の1部）を掲げるというかたちでふりかえってみたい、と思う。専攻の歩み、また、当該専攻と三田哲学会との交流をふりかえる談話会等を企画せよとの『哲学』誌の編集方針がきっかけである。

1981年、社会・心理・教育学科（現、人間関係学科）の新しい専攻として設立された人間科学専攻は、設立の経緯や理念、現在まで辿ってきた各段階での課題事項など、まとまったかたちでふりかえり記録する機会はこれまでないままできている。

設立準備期には、槇田仁教授が専攻発足のひとつの中心となり、それに賛同した沢田允茂教授（現、名誉教授）が人間科学の理念を拡大展開し、当時の文学部長（故）三雲夏生教授の尽力を得て、人間科学専攻が新設されている。佐野勝男教授（現、名誉教授）、井関利明教授（現、総合政策学部教授）、大淵英雄助教授（現、教授）、南隆男助教授（現、教授）、沢田允茂教授、槇田仁教授、それに国立精神衛生研究所心理室長の山本和郎を教授に迎え、これら計8名が新専攻発足時の専任スタッフとなった。設立1年後に、心理学専攻から小林ポオル助手（現、助教授）が移籍してスタッフに加わった。1983年に、東京都精神医学総合研究所から荻野恒一を客員

* 慶應義塾大学文学部助教授（比較文化学・文化人類学）

** 慶應義塾大学文学部教授（組織心理学・社会心理学）

人間科学専攻をふりかえる

教授として、都立大学から三井宏隆を助教授として迎えた。その後、1986年に大阪大学から宮坂敬造を、1990年に電気通信大学から渡辺秀樹を、それぞれ助教授として迎え、現在に至っている。

人間科学専攻設立以来の諸事情はいろいろな機会に部分的に語られてきたが、後から加わった新しいスタッフにとってはまだまあらしい口承伝承のように含みが多く、多様で重層的流動的な印象を受ける。談話会・会議等で話にのぼる経緯を簡潔にまとめるという方法では、どうもスタッフの思いをすくいあげられないようである。奥底に流れる一貫した深層のかたちを表現するようなニュアンスに富む表現法が求められるのだが、それでは歴史小説を書き上げることにもなりかねず、とても力及ばず、である。

人間科学専攻の初期の歩み以来、スタッフ間の多様な問題意識を交錯させる試みは、比較的活発におこなわれてきた、と思う。その一端をよく示すものは、これまでおこなってきた研究談話会などの活動である。ところが、それらは記録としてまとめられていず、専攻の歩みをしるす資料としては整っていない。専攻スタッフ自身、とくに新スタッフが、この点を記録として確認することから専攻の歴史と課題・抱負を語るはずみがつくのではないか、ということになった。また、専攻学生諸君にとっても、人間科学専攻の活動の記録（の1部）を参考として残すことは、意義がある、かもしれない。

そこで『哲学』誌編集委員会の企画を借りて、人間科学専攻の現在までの研究・教育活動をふりかえる資料記録の1部を、以下に掲げることにした。

現在まで、51回にわたる「人間科学コロキウム」（スタッフ間の研究談話会）、および「人間科学アゴラ」（年1回の、専攻学生との討論集会）などの記録を整理するうち、文学部でもっとも歴史の浅い専攻の初期の傾向や専攻学生諸君への関心に応える試みを、ともあれ、よく示している、という感慨をもつようになった。

人間科学専攻に学んだ学生諸君の関心の特徴や変化をもふりかえって、

現学生諸君への参考に供しよう、との発案もなされ、この機会に「卒業論文」もその題目をリストアップするかたちで記録に残す、ということになった。卒業論文研究の拠点となる研究会（ゼミナール）には、専任スタッフのほか、三浦和男教授（哲学専攻）、故三雲夏生教授（倫理学専攻）、神山四郎教授（現、名誉教授、西洋史学専攻）、岩男寿美子教授（新聞研究所）、二瓶恭光教授（産業研究所）の参加を得ている。

「卒業論文」題目のリストを見ると、関心のひろがりが大きく、既存のやりかたではかたちにしにくい学生の探求心のパターンとその変化が読みとれるように思われる。ある意味では狭く掘り下げる深さが不足する面もあらわしていると思われるが、現在の学生の多様化し個性化する関心に応えようとする文学部一専攻の試みのひとつの姿を示すと思われる。

他の専攻のスタッフの方々や学生諸君にとっても、われわれ「人間科学専攻」の歩みの一端の印象を得る資料にもなりえば幸いである。

〔 1 〕

「人間科学コロキウム」（専攻スタッフの研究談話会）記録

●第1回 「コミュニティ心理学の課題と方法」

話題提供者 山本 和郎（文学部教授）

指定討論者 南 隆男（文学部助教授）

司 会 井関 利明（文学部教授）

《日時》 昭和 56 年 5 月 27 日（水） 午後 3 時～5 時 30 分

《場所》 塾監局第3会議室

●第2回 「人間は環境の変化をどうとらえるか

——主観的“ランダムさ”について——」

話題提供者 小林ポオル（文学部助手）

人間科学専攻をふりかえる

指定討論者 並木 博 (文学部教授)

司 会 井関 利明 (文学部教授)

《日時》 昭和 56 年 6 月 24 日 (水) 午後 3 時~5 時 30 分

《場所》 塾監局第 2 会議室

●第 3 回 「組織における個人のキャリア発達」

話題提供者 南 隆男 (文学部助教授)

指定討論者 坂上 貴之 (文学部助手)

司 会 井関 利明 (文学部教授)

《日時》 昭和 56 年 11 月 4 日 (水) 午後 3 時~5 時 30 分

《場所》 塾監局第 3 会議室

●第 4 回 「人間科学を考える」

話題提供者 沢田 允茂 (文学部教授)

指定討論者 槇田 仁 (文学部教授)

司 会 井関 利明 (文学部教授)

《日時》 昭和 57 年 1 月 13 日 (水) 午後 3 時~5 時 30 分

《場所》 塾監局第 3 会議室

●第 5 回 「現象学的精神病理学とトランス文化精神医学」

話題提供者 荻野 恒一 (文学部客員教授)

指定討論者 佐藤 方哉 (文学部教授)

” 山本 和郎 (文学部教授)

司 会 井関 利明 (文学部教授)

《日時》 昭和 57 年 4 月 21 日 (水) 午後 3 時~5 時 30 分

《場所》 塾監局第 3 会議室

●第 6 回 「日常場面における Commons Dilemma Game」

話題提供者 三井 宏隆 (文学部助教授)

指定討論者 本間 道子 (東京都立大学助手)

” 小林ポオル (文学部助手)

司 会 井関 利明 (文学部教授)

《日時》 昭和 57 年 5 月 26 日 (水) 午後 3 時～5 時 30 分

《場所》 塾監局第 3 会議室

● 第 7 回 「**関係としての人間——欠如体の把握の試み——**」

話題提供者 大淵 英雄 (文学部教授)

指定討論者 山岸 健 (文学部教授)

司 会 井関 利明 (文学部教授)

《日時》 昭和 57 年 6 月 30 日 (水) 午後 3 時～5 時 30 分

《場所》 塾監局第 3 会議室

● 第 8 回 「**人間科学の方法的基礎——新しい科学は可能か——**」

話題提供者 井関 利明 (文学部教授)

指定討論者 沢田 允茂 (文学部名誉教授)

司 会 南 隆男 (文学部助教授)

《日時》 昭和 57 年 10 月 27 日 (水) 午後 3 時～5 時 30 分

《場所》 塾監局第 3 会議室

● 第 9 回 「**表出行動の研究——筆跡と性格の関係について——**」

話題提供者 楨田 仁 (文学部教授)

指定討論者 萩野 恒一 (文学部客員教授)

司 会 山本 和郎 (文学部教授)

《日時》 昭和 57 年 11 月 17 日 (水) 午後 3 時～5 時 30 分

《場所》 塾監局第 1 会議室

● 第 10 回 「**人間科学の方法的基礎 (その 2)**

——新しい科学は可能か——」

話題提供者 井関 利明 (文学部教授)

指定討論者 沢田 允茂 (文学部名誉教授)

司 会 南 隆男 (文学部助教授)

《日時》 昭和 57 年 12 月 15 日 (水) 午後 2 時 30 分～5 時 30 分

《場所》 塾監局第3会議室

●第11回 「人間道德への科学的アプローチ」

話題提供者 沢田 允茂 (文学部名誉教授)

指定討論者 小谷津孝明 (文学部教授)

司会 井関 利明 (文学部教授)

《日時》 昭和58年1月19日(水) 午後3時～5時30分

《場所》 新研究室棟 B・C 会議室

●第12回 「国際比較研究の tool としての “Convergence Hypothesis”」

話題提供者 二瓶 恭光 (産業研究所教授)

指定討論者 南 隆男 (文学部助教授)

司会 井関 利明 (文学部教授)

《日時》 昭和58年4月27日(水) 午後3時～5時30分

《場所》 塾監局第3会議室

●第13回 「社会介入の倫理——社会(知識)の統合の原理は何に求められるか——」

話題提供者 三浦 和男 (文学部教授)

指定討論者 荻野 恒一 (文学部客員教授)

司会 井関 利明 (文学部教授)

《日時》 昭和58年5月18日(水) 午後3時～5時30分

《場所》 塾監局第1会議室

●第14回 「国際交流の社会心理学的研究」

話題提供者 岩男寿美子 (新聞研究所教授)

指定討論者 三井 宏隆 (文学部助教授)

司会 井関 利明 (文学部教授)

《日時》 昭和58年6月29日(水) 午後3時～5時30分

《場所》 塾監局第3会議室

●第15回 「都市におけるコミュニティ形成——その必要性・可能性——」

話題提供者 高倉 節子 (東京女学館短期大学教授)

指定討論者 山本 和郎 (文学部教授)

司 会 井関 利明 (文学部教授)

《日時》 昭和 58 年 10 月 19 日 (水) 午後 3 時~5 時 30 分

《場所》 新研究室棟 C 会議室

●第16回 「南米途上国 (ペルー) の都会の問題と精神疫学調査」

話題提供者 林 峻一郎 (北里大学客員教授)

指定討論者 高山 博 (文学部専任講師)

司 会 大淵 英雄 (文学部教授)

《日時》 昭和 58 年 11 月 16 日 (水) 午後 3 時~5 時 30 分

《場所》 塾監局第 1 会議室

●第17回 「社会-空間的行動としてのなわばり性」

話題提供者 本間 道子 (日本女子大学専任講師)

指定討論者 小林ポオル (文学部助教授)

司 会 大淵 英雄 (文学部教授)

《日時》 昭和 59 年 1 月 13 日 (水) 午後 3 時~5 時 30 分

《場所》 塾監局第 1 会議室

●第18回 「変化する情報環境とメディア教育」

話題提供者 清原 慶子 (常磐大学専任講師)

指定討論者 井下 理 (国際商科大学助教授)

司 会 大淵 英雄 (文学部教授)

《日時》 昭和 59 年 4 月 25 日 (水) 午後 3 時~5 時 30 分

《場所》 塾監局第 1 会議室

●第19回 「人間関係と目的因を繰り込む科学」

話題提供者 糸賀 雅児 (文学部助手)

指定討論者 山本 和郎 (文学部教授)

司 会 大淵 英雄 (文学部教授)

人間科学専攻をふりかえる

《日時》 昭和 59 年 5 月 30 日 (水) 午後 3 時～5 時 30 分

《場所》 新研究室棟 C 会議室

●第20回 「環境科学の新しい動向——現象学的アプローチ——」

話題提供者 杉浦 章介 (経済学部助教授)

指定討論者 三井 宏隆 (文学部助教授)

司 会 大淵 英雄 (文学部教授)

《日時》 昭和 59 年 6 月 27 日 (水) 午後 3 時～5 時 30 分

《場所》 塾監局第 3 会議室

●第21回 「認知科学の動向」

話題提供者 小谷津孝明 (文学部教授)

指定討論者 井関 利明 (文学部教授)

司 会 大淵 英雄 (文学部教授)

《日時》 昭和 59 年 12 月 19 日 (水) 午後 3 時～5 時 30 分

《場所》 新研究室棟 A・B 会議室

●第22回 「人間論雑感」

話題提供者 神山 四郎 (文学部教授)

指定討論者 沢田 允茂 (文学部教授)

司 会 井関 利明 (文学部教授)

《日時》 昭和 60 年 1 月 16 日 (水) 午後 3 時～5 時 30 分

《場所》 新図書館 AV ホール

●第23回 「生命の解放」

話題提供者 間瀬 啓允 (文学部教授)

指定討論者 江藤 直純 (ルーテル神学大学教授)

” 池田満里子 (文学部教授)

司 会 大淵 英雄 (文学部教授)

《日時》 昭和 60 年 5 月 29 日 (水) 午後 3 時～5 時 30 分

《場所》 塾監局第 3 会議室

●第24回 「イノベーション普及研究における諸問題——イノベティブネス概念をめぐって——」

話題提供者 青池 慎一 (文学部助教授)

指定討論者 井下 理 (国際商科大学助教授)

司 会 大淵 英雄 (文学部教授)

《日時》 昭和 60 年 6 月 26 日 (水) 午後 3 時~5 時 30 分

《場所》 塾監局第 3 会議室

●第25回 「民間療法の特徴をめぐって——比較文化的接近——」

話題提供者 宮坂 敬造 (大阪大学助手)

指定討論者 井関 利明 (文学部教授)

司 会 大淵 英雄 (文学部教授)

《日時》 昭和 60 年 9 月 16 日 (月) 午前 10 時~12 時

《場所》 新研究室棟 A・B 会議室

●第26回 「文化と心理学との関連性について——母性をめぐる現状と問題点への考察を通して——」

話題提供者 大日向雅美 (彰栄保育専門学校専任講師)

指定討論者 南 隆男 (文学部助教授)

司 会 三井 宏隆 (文学部助教授)

《日時》 昭和 60 年 11 月 6 日 (水) 午後 3 時~5 時 30 分

《場所》 新研究室棟 C 会議室

●第27回 「二つの社会の治療儀礼」

話題提供者 吉田 禎吾 (文学部客員教授)

指定討論者 荻野 恒一 (文学部客員教授)

司 会 大淵 英雄 (文学部教授)

《日時》 昭和 60 年 12 月 18 日 (水) 午後 3 時~5 時 30 分

《場所》 塾監局第 1 会議室

●第28回 「冗談行動の過程への文化人類学的接近」

人間科学専攻をふりかえる

話題提供者 宮坂 敬造 (文学部助教授)

指定討論者 鈴木 正崇 (文学部助教授)

司 会 山本 和郎 (文学部教授)

《日時》 昭和 61 年 5 月 21 日 (水) 午後 3 時~5 時 30 分

《場所》 大学院棟 313 番教室

●第29回 「家族万華鏡——ミニューチンの構造的家族療法について——」

話題提供者 信国 恵子 (家族療法研究家)

指定討論者 宮坂 敬造 (文学部助教授)

司 会 山本 和郎 (文学部教授)

《日時》 昭和 61 年 11 月 5 日 (水) 午後 3 時~5 時 30 分

《場所》 新研究室棟C会議室

●第30回 「The Life-course Peprpective on Social Change」

話題提供者 タマラ・ハレブン (クラーク大学歴史学部教

授・ハーバード大学人口研究センター研究員)

指定討論者 平野 敏政 (文学部助教授)

司 会 南 隆男 (文学部助教授)

《日時》 昭和 62 年 1 月 28 日 (水) 午後 3 時~5 時 30 分

《場所》 新研究室棟C会議室

●第31回 「空間設計にみるモストモダン」

話題提供者 小林ポオル (文学部助教授)

指定討論者 宮坂 敬造 (文学部助教授)

司 会 南 隆男 (文学部助教授)

《日時》 昭和 62 年 5 月 6 日 (水) 午後 3 時~5 時 30 分

《場所》 新研究室棟人間科学実験室

●第32回 「都市のノスタルジア——地域開発に潜む矛盾——」

話題提供者 杉浦 章介 (経済学部助教授)

指定討論者 小林ポオル (文学部助教授)

司 会 井関 利明 (文学部教授)

《日時》 昭和 62 年 6 月 3 日 (水) 午後 3 時~5 時 30 分

《場所》 塾監局第 3 会議室

● 第 33 回 「現代日本人の〈移行〉 Socio-cultural and Psycho-developmental Transitions をめぐる諸問題」

話題提供者 南 隆男 (文学部助教授)

指定討論者 宮坂 敬造 (文学部助教授)

司 会 井関 利明 (文学部教授)

《日時》 昭和 62 年 11 月 4 日 (水) 午後 3 時~5 時 30 分

《場所》 新研究室棟文学部会議室

● 第 34 回 「Psychological Androgyny について」

話題提供者 三井 宏隆 (文学部助教授)

指定討論者 南 隆男 (文学部助教授)

司 会 井関 利明 (文学部教授)

《日時》 昭和 62 年 11 月 18 日 (水) 午後 3 時~午後 5 時 30 分

《場所》 新研究室棟文学部会議室

● 第 35 回 「人類学における自己言及性の問題——民族誌の記述の検討から——」

話題提供者 宮坂 敬造 (文学部助教授)

指定討論者 鈴木 正崇 (文学部助教授)

司 会 井関 利明 (文学部教授)

《日時》 昭和 62 年 12 月 16 日 (水) 午後 3 時~午後 5 時 30 分

《場所》 新研究室棟文学部会議室

● 第 36 回 「留学生の対日イメージ」

話題提供者 萩原 滋 (新聞研究所助教授)

指定討論者 宮坂 敬造 (文学部助教授)

司 会 井関 利明 (文学部教授)

《日時》 昭和 63 年 1 月 27 日 (水) 午後 3 時～5 時 30 分

《場所》 新研究室棟文学部会議室

●第37回 「産業構造転換期における日本人の勤勉——なんのために働くか——」

話題提供者 野田 正彰 (神戸市立外国語大学教授)

指定討論者 南 隆男 (文学部助教授)

司 会 宮坂 敬造 (文学部助教授)

《日時》 昭和 63 年 6 月 15 日 (水) 午後 4 時 20 分～7 時

《場所》 大学院棟 335 番教室

●第38回 「〈対人行動研究〉の現状と課題——相互依存の理論を中心として——」

話題提供者 浦 光博 (関西大学講師)

指定討論者 小林ポオル (文学部助教授)

司 会 南 隆男 (文学部助教授)

《日時》 昭和 63 年 6 月 29 日 (水) 午後 4 時～6 時 30 分

《会場》 新研究室棟文学部会議室

●第39回 「異文化接触をめぐる教育的課題——心の可塑性からの自由をめざして——」

話題提供者 渡辺 文夫 (東北歯科大学助教授)

指定討論者 宮坂 敬三 (文学部助教授)

司 会 南 隆男 (文学部助教授)

《日時》 昭和 63 年 7 月 13 日 (水) 午後 6 時～8 時 30 分

《場所》 新研究室棟文学部会議室

●第40回 「個人を理解するためのシステムの認識論」

話題提供者 遊佐安一郎 (クリニカル・ディレクター/在ニューヨーク)

指定討論者 山本 和郎 (文学部教授)

司 会 南 隆男 (文学部助教授)

《日時》 昭和 63 年 7 月 20 日 (水) 午後 6 時~9 時

《場所》 新研究室棟商学部会議室

●第41回 「創造性を豊かにする教育」

話題提供者 三好 隆史 (心理行動研究所所長)

指定討論者 小林ポオル (文学部助教授)

司 会 榎田 仁 (文学部教授)

《日時》 昭和 63 年 7 月 23 日 (土) 午前 10 時~12 時

《場所》 新研究室棟文学部会議室

●第42回 「認知的発達のプロセス」

話題提供者 大浜幾久子 (駒沢大学助教授)

指定討論者 小林ポオル (文学部助教授)

司 会 榎田 仁 (文学部教授)

《日時》 昭和 63 年 7 月 23 日 (土) 午後 1 時~3 時

《場所》 新研究室棟文学部会議室

●第43回 「ヒューマン・スペースへの社会心理学的接近」

話題提供者 渋谷 昌三 (山梨医科大学助教授)

指定討論者 南 隆男 (文学部助教授)

司 会 榎田 仁 (文学部教授)

《日時》 昭和 63 年 7 月 25 日 (月) 午後 1 時~3 時

《場所》 新研究室棟文学部会議室

●第44回 「青年期の孤独感——その心理学的研究——」

話題提供者 伊藤 友彦 (静岡大学専任講師)

指定討論者 山本 和郎 (文学部教授)

司 会 榎田 仁 (文学部教授)

《日時》 昭和 63 年 7 月 25 日 (月) 午後 3 時~5 時

《場所》 新研究室棟文学部会議室

- 第45回 「産業構造の変化と地域変動」
話題提供者 村山 研一 (信州大学助教授)
指定討論者 南 隆男 (文学部助教授)
司 会 宮坂 敬造 (文学部助教授)
《日時》 昭和 63 年 9 月 26 日 (月) 午後 3 時～5 時 30 分
《場所》 新研究室棟文学部会議室
- 第46回 「鯨・人間・文化——捕鯨と人間をめぐる総合的研究——」
話題提供者 高橋 順一 (桜美林大学助教授)
指定討論者 宮坂 敬造 (文学部助教授)
司 会 南 隆男 (文学部助教授)
《日時》 平成元年 1 月 25 日 (水) 午後 3 時～6 時
《場所》 新研究室棟文学部会議室
- 第47回 「アメリカ中産階級の文化と生活の変化——住宅のデザインを中心として——」
話題提供者 奥出 直人 (日本女子大学専任講師)
指定討論者 宮坂 敬造 (文学部助教授)
司 会 井関 利明 (文学部教授)
《日時》 平成元年 4 月 19 日 (水) 午後 3 時～6 時
《場所》 新研究室棟文学部会議室
- 第49回 「〈現代家族〉の諸問題——それをどう把えていくか——」
話題提供者 渡辺 秀樹 (電気通信大学助教授)
指定討論者 小林ポオル (文学部助教授)
司 会 三井 宏隆 (文学部助教授)
《日時》 平成元年 7 月 5 日 (水) 午後 3 時～6 時
《場所》 新研究室棟商学部会議室
- 第50回 「規範・権力・贈与——原初的社會における——」
話題提供者 大澤 真幸 (東京大学助手)

指定討論者 宮坂 敬造 (文学部助教授)

司 会 三井 宏隆 (文学部助教授)

《日時》 平成元年 7 月 13 日 (木) 午後 5 時 30 分～8 時

《場所》 新研究室棟経済学部会議室

●第51回 「消費社会と CF 表現——社会変容論の視角から——」

話題提供者 内田 隆三 (神戸女学院大学助教授)

指定討論者 小林ポオル (文学部助教授)

司 会 宮坂 敬造 (文学部助教授)

《日時》 平成元年 7 月 26 日 (水) 午後 3 時～午後 5 時 30 分

《場所》 新研究室棟文学部会議室

[2]

「人間科学アゴラ」(専攻学生との討論集会) 記録

●第1回 「人間科学は可能か」

話題提供者 鈴木 孝夫 (言語文化研究所教授)

” 三浦 和男 (文学部教授)

指定討論者 沢田 允茂 (文学部名誉教授)

” 大淵 英雄 (文学部教授)

” 南 隆男 (文学部助教授)

司 会 井関 利明 (文学部教授)

《日時》 昭和 56 年 7 月 8 日 (水) 午後 1 時～4 時

《場所》 西校舎 532 番教室

●第2回 「動物と人間——人間科学の基底を探る——」

話題提供者 沢田 允茂 (文学部名誉教授)

” 佐藤 方哉 (文学部教授)

人間科学専攻をふりかえる

話題提供者 栗本慎一郎 (明治大学教授)

” 岸 由二 (経済学部助教授)

司会 井関 利明 (文学部教授)

《日時》 昭和 57 年 7 月 7 日 (水) 午後 3 時~5 時 30 分

《場所》 西校舎 519 番教室

● 第 3 回 「21 世紀に向けて人間生命を考える」

話題提供者 中谷 瑾子 (法学部教授)

” 飯塚 理八 (医学部教授)

” 松浦 鉄也 (医学部教授)

” 饗庭 忠男 (弁護士)

指定討論者 木原 弘二 (医学部教授)

” 間瀬 啓允 (文学部教授)

司会 榎田 仁 (文学部教授)

《日時》 昭和 58 年 7 月 6 日 (水) 午後 1 時~5 時 30 分

《場所》 西校舎 501 番教室

● 第 4 回 「〈生活の質〉 (Quality of Life) を探る」

話題提供者 山本 和郎 (文学部教授)

指定討論者 沢田 允茂 (文学部名誉教授)

” 加藤 寛 (経済学部教授)

” 岩男寿美子 (新聞研究所教授)

司会 井関 利明 (文学部教授)

《日時》 昭和 59 年 10 月 24 日 (水) 午後 3 時~5 時 30 分

《場所》 西校舎 519 番教室

● 第 5 回 「現代社会の狂気の諸相——現代人の心の深層を探る——」

話題提供者 上野千鶴子 (平安女学院短期大学助教授)

” 萩野 恒一 (文学部客員教授)

” 山本 和郎 (文学部教授)

— 話題提供者 宮坂 敬造 (文学部助教授)

司 会 井関 利明 (文学部教授)

《日時》 昭和 61 年 10 月 20 日 (月) 午後 1 時～5 時

《場所》 西校舎 519 番教室

● 第 6 回 「人間・社会・人生商売」

話題提供者 石坂 巖 (商学部名誉教授)

司 会 大淵 英雄 (文学部教授)

《日時》 昭和 62 年 7 月 1 日 (水) 午後 3 時～5 時 30 分

《場所》 西校舎 519 番教室

● 第 7 回 「国際化の新段階——第二の開国へ向けて——」

話題提供者 青木 保 (大阪大学教授)

指定討論者 岩男寿美子 (新聞研究所教授)

” 島田 晴雄 (経済学部教授)

” 曾根 泰教 (法学部教授)

司 会 井関 利明 (文学部教授)

《日時》 昭和 63 年 7 月 6 日 (水) 午後 3 時～5 時 30 分

《場所》 西校舎 517 番教室

[3]

「卒業論文」——題目一覧——

(研究会担当者 50 音順に卒業年次ごとに提示)

《岩男寿美子研究会》

(昭和 59 年 3 月卒)

「化粧の効果研究」

人間科学専攻をふりかえる

「素顔のあなた・化粧のあなた——化粧に関する実験的研究——」

「日本人留学生の対日・対米イメージの変化」

「海外帰国子女の対日イメージに及ぼす異文化体験とアイデンティティ
の影響」

「母親の就労が幼児に及ぼす影響」

「顔面表情及び情動表現の被説得性における影響について」

「うそとアイ・コンタクト」

(昭和 60 年 3 月卒)

「援助行動に対する化粧の効果」

「企業広告のイメージ——広告による Beer War へのアプローチ——」

「子供の創造性に影響を与える要因——日豪比較——」

「職業のイメージが第一印象形成に与える影響」

「Non-Emergency における傍観者効果」

「対象の稀少性が選択行動に及ぼす影響」

(昭和 61 年 3 月卒)

「母親の就労が子どもに及ぼす影響——日豪比較——」

「Feeling CM における広告効果」

「情報感度とメディア接触」

「外国人留学生——日本でのその後の 10 年: Career Development と適
応に焦点をあてたケース・スタディ——」

(昭和 62 年 3 月卒)

「テレビドラマの内容分析——主婦像の変遷——」

「テレビ・こども」

「特定地方交通線の第 3 セクター化に対する住民の反応」

「インタビュー調査における日本人留学生の対米イメージの変化」

(昭和 63 年 3 月卒)

「マスメディアにおける性役割の変化と現実の意識」

「現代青年の消費・価値観・情報」

「化粧行動の研究」

「『こころの時代』における『個性』化傾向への一考察」

「マス・メディアにおける性役割の変化と現実の意識」

(平成元年 3 月卒)

「子供の偏見の形成及び遙滅のメカニズムに関する一考察——文献研究
編——」

「子供の偏見の形成及び遙滅のメカニズムに関する一考察——調査研究
編——」

(平成 2 年 3 月卒)

「幕末日本人のアメリカ像——漂流民を中心として——」

「在日韓国人に対する偏見について」

「日本人の韓国人に対する偏見とその遙滅について」

「映像メディアに描かれる暴力とその影響」

「偏見の決定因についての調査」

(平成 3 年 3 月卒)

「帰国子女の再適応について」

「日本の大学生の『価値』について」

「在米日系企業で働く米国人女性の意識調査」

「上司の性別をめぐる行動とイメージの分析」

人間科学専攻をふりかえる

《井関利明研究会》

(昭和 59 年 3 月卒)

- 「就業主婦の購買行動とこれからの百貨店」
- 「今日のヒット商品についての一考察」
- 「豊かさを求めて——遊び・楽しさの研究——」
- 「いまライフスタイルの時代」
- 「健康ブームにみる現代の新しい価値観について」
- 「現代社会における結婚の役割と意味」
- 「百貨店の広告パターン」
- 「成熟社会における経営組織の環境適応」
- 「異文化理解における言語の役割」
- 「オフィス・オートメーションの本質と展開」
- 「二言語併用に関する人間科学的考察」
- 「文化としての音楽」
- 「これからの日本の雑誌・広告への提言」
- 「選択行動におけるイメージの機能」
- 「ジェスチャーによるアジア文化比較」
- 「時間のことば」

(昭和 60 年 3 月卒)

- 「新しい価値観としての健康——Wellness とは何か——」
- 「選択行動における情報処理」
- 「エリア・マーケティング戦略の中のライフスタイル・アプローチ——『地域性指標』を求めて——」
- 「就業選択をめぐる情報収集行動パターン」
- 「ライフスタイルによる生活空間分析——喫茶店のアメニティ調査より——」

「消費社会の記号論的分析」

「日本人の言語行動における一考察——異文化間相互理解のために——」

「現代社会に於ける日本人の食生活」

「新しい時代の女性像を探る——女子大生のライフスタイル分析——」

「マンダラと現代人の世界観——東西文化交流の道を求めて——」

「新しい街状況におけるコミュニケーション——スペース・コミュニケーションの一考察——」

「音楽と時間」

「世界経済を操るユダヤ人の解明——歴史的・文化的側面からのアプローチ——」

「生活空間としての建築」

「『創造的人間』考察」

(昭和 61 年 3 月卒)

「手づくりライフを求めて——現代社会における手づくりの意味考察——」

「行動原理としての世間体」

「東南アジアの構造」

「現代におけるイベントの意味と役割」

「社会現象を社会システム思考でみた場合の有効性——小型化社会の可能性——」

「異化作用としての対抗文化」

「日常性の文脈と女性——イリイチ『ジェンダー』をめぐって——」

「大衆社会とアイドル考」

「成熟社会のネットワーク経営」

「消費者行動研究の新パラダイムを求めて」

人間科学専攻をふりかえる

(昭和 62 年 3 月卒)

『ソート社会における女性の社会進出』について」

「映像体験と文化」

「現代社会における消費とは——その役割と位置づけ——」

『産む性』の自立——母性社会からの脱皮——」

『リーダーシップ』——新しい理論的背景——」

「対称詞としての『じぶん』」

「美しさの表現——心の豊かさを求めて——」

「大人ってなに？——現代大人像及び大人尺度と内的成熟度の関係——」

「生活の質的向上と医療サービスの質的变化について」

「現代社会における女性解放に関する一考察」

「新しい都市状況における一般システム論的考察」

「美術館におけるマーケティング戦略——新しい美術館のあり方を求めて——」

「カラー・マーケティング——好きな色・売れる色——」

「インド発源感性——システムとしてのファッション——」

「現代のヒーローを探る——『都市化』『義理・人情』の中の援助行動と人間関係——」

「婦人労働の現在と未来」

「消費者行動の社会心理学的アプローチ」

「女性の意識と消費者行動」

「家族の変化と生活再編成」

「現代日本社会における大学生の存在とは」

「働く主婦増加にみる新しいサービス商品の現状と今後の展望」

「女にとっての『母性』」

「対人選択における諸理論及び認知的ポートフォリオ分析の可能性について」

「消費社会における『遊び』と『余暇』」

「社会心理学から——女性はなぜきれいになりたいか——」

「性役割と文化——『女らしさ』は本能か——」

「現代における食生活と消費者像」

「外食産業転換期における需要と供給」

(昭和 63 年 3 月卒)

「大学生における疎外的状況の意味について」

「異文化コミュニケーション： 在日朝鮮人二世の文化アイデンティティ
について——事例研究——」

「居住空間の人間科学的分析」

「現代芸術の機能——人の求める生活環境の発見——」

「現代若者論」

「建築設計と利用者の意識——慶應三田図書館の研究——」

「ミセスの役割意識と消費者行動」

「豊かな社会における消費者心理——高級品の購買心理」

「オフィスにおける快適性の意味」

「アメリカの高等教育の現状——その開放性と柔軟性——」

「消費空間の環境デザイン」

「大学生に見られる自由時間の行動パターン」

「センセーション・シーキングによる人間行動の解明」

「消費社会とギフト」

(平成元年 3 月卒)

「自己暗示の意義とこれから」

「大学生の集団参加」

「大学生にみられる店舗選択行動とライフスタイル」

人間科学専攻をふりかえる

「現代社会と自己喪失」

「使用言語による認識の差異——慶應義塾大学国際センター留学生へのインタビューより——」

「コンベンションの発展可能性——わが国における現状と展望——」

「イメージ論——ライフスタイルと街のイメージ——」

「脱産業社会におけるリーダーシップ」

「『快適空間』——病室における人間科学的考察——」

「大学生の結婚観」

「ドゥールーズの方法論」

「大学生の消費動向」

「日本的経営と人材の流動化」

「大学生の人間関係と自己意識から見た精神的満足感について」

「街のイメージ——街づくりのイメージ戦略——」

「人間科学における実証の意味」

「日常生活における情報の果たす役割」

「気候変動の観点からみた都市化の実態」

「表現としての個性——大学生にみる個性の位置付け——」

(平成 2 年 3 月卒)

「臓器移植にみる生命倫理」

「高齢化社会の社会福祉サービス——人生 80 年時代への展望——」

「企業のパラダイム・シフト」

「アンドロジニー再考——新しい人間像の模索——」

「終末期医療の現状と未来」

「愛玩行動——人はなぜペットを飼うのか——」

「生徒のストレスと管理教育」

「『余暇』の脱構築の試み」

「わが国の企業の文化活動の現状と展望」

「人間交流における個人の在り方」

「マインドスタイルとマインドスケール——ライフスタイルに付加すべき
新たな概念・尺度——」

「学生会館の現状と展望」

「大学生の飲酒行動」

「わが国の SC の歴史と今後の動向」

「非営利組織の広告活動——『大学、冬の時代』における広報・PR) 戦
略——」

(平成 3 年 3 月卒)

「新しい生活像と生命保険産業」

「広告の長期的効果——企業広告と商品広告の相乗効果——」

「意味ある生への模索——関係性の回復にむけて——」

「豊かさの中の企業」

「時間における人間科学的考察」

「老人問題の比較文化的考察」

「自己と状況との再構築——自己の中の鏡、鏡のうちのメッセージ——」

「力と実践の哲学」

「1990 年代における販買促進」

「関係の中の死——脳死問題にみる今後の医療の展望——」

「日本の雇用形態の変化と展望」

「ホリスティック医学」

「『男余り現象』についての人間科学的考察」

「色彩をめぐる人間科学的考察」

「動物認識の相対性——狩猟民『マタギ』と現代人——」

「自己啓発の可能性」

人間科学専攻をふりかえる

「国際化時代の広告」

「終末予言の考察」

「量子物理学における実在の概念」

「豊かさの裏側——増え続けるゴミの背後にあるもの——」

《大淵英雄研究会》

(昭和 59 年 3 月卒)

「自我・他我・世界——世界の再考察——」

「状況をのり超える可能性」

「生死の間で——死の先取り、内在化としての生——」

「現代社会において東洋的思惟がもつ意味——教育の場に人間性を取り戻すために——」

「『死』を包摂した『生』——『死』についての思索を通じて『人間存在』を再考する試み——」

「未在の科学」

(昭和 60 年 3 月卒)

「自己からの関係性——フョイエルバッハの現代的意味——」

「絶えざるはじまりへの希求——批判的主体の形成をめぐる——」

「キリスト教における自己概念——キルケゴールの『死に至る病』を中心に——」

「関係としての社会/価値創造へ向けて」

(昭和 61 年 3 月卒)

「自然と文化との相克」

「トポスの変容——聖と俗の日常性批判——」

「『共感しうる場』の創出の可能性」

「自己と存在」

「科学知識と世界観——社会進化論再考から新たな展望へ——」

「価値理念と人間」

(昭和 63 年 3 月卒)

「私をめぐる『死』の問題」

「『狂気』論」

「女性のからだ解放運動」

(平成元年 3 月卒)

「文学的想像力試論——宮澤賢治——」

「自立の精神」

「犯罪——私的神話と時代の幻想——」

「戦争の構造——平和希求への序章——」

「コトバとコミュニケーション」

「創造的想像力の展望」

(平成 2 年 3 月卒)

「近代を超えるための人間の世界内存在様式——物象化論による疎外と狂気の統一的展開——」

「優しさの源流を求めて——痛み^{ズミ}の共有からの出発——」

「人間の大きいなるふるさとについて」

「人間と時間」

「『開かれて』在るために——0^{ゼロ}からの創造に限りなき憧れを抱いて——」

「翼をもつことと根を求めること」

人間科学専攻をふりかえる

(平成 3 年 3 月卒)

「人間と思想との関係における相関と分離」

「教育塾考」

「子守歌を放棄せよ」

「『異質性』を見つめて」

「『交通』が孕む問題をめぐって——人間の固有性とその背理に関する一考察——」

「リズムの力——《間》の体験へ——」

《荻野恒一研究会》

(昭和 59 年 3 月卒)

「フランクフルトと現代」

「排除と疎外——その克服をめざして——」

「ホスピスにみる人間像」

「価値と生命の意味についての一考察」

「R・D・レインに関する一考察」

「沖縄の民間信仰と精神病」

「沖縄における狂気と疎外」

「現代家族の崩壊と病理——日本の歪んだ親子関係——」

「フランスの精神医学」

「現代日本における静期の identity crisis に関する比較文化精神医学的一考察」

(昭和 60 年 3 月卒)

「フロイト後期の思想的展開——『超自我』——概念をめぐって」

「しつけ——中日の比較文化——」

- 「精神分裂病における精神病理と家族病理」
「病と苦悩の存在論」
「現代社会における実存の複数性」
「マルティン・ブーバーの思想と精神医学における現象学的人間学への方向」
「M・メルロ・ポンティ『知覚の現象学』における言語論の検討」
「ベートーヴェンのパトスをめぐって——ロマン・ロランにおけるベートーヴェン研究の本質とその考察——」
「伝統医療と現代医療」
「R・D・レイン論——狂気の『了解』ということ——」

(昭和 61 年 3 月卒)

- 「狂気・信仰・医療に関する一考察」
「『自閉症』について」
「狂気に向う人間」
「強迫パーソナリティにみられる現代青年の精神病理」
「G・T・フェヒナー再考」
「不安について」
「人間存在における価値実現について」

(昭和 62 年 3 月卒)

- 「自我と社会の出会い」
「死を宣告された人間の精神活動に対する現象学的考察——生きられる時間——」
「マルティン・ブーバーの思想と現存在分析」
「文化摩擦と精神病理」
「R・D・レインの分裂病の『ファミリー・スタディ家族研究』」

人間科学専攻をふりかえる

「森田療法と実存分析」

「現代文化状況における対人関係の病——いじめの問題を中心に——」

「宗教体験の現象的記述とユングの宗教心理学」

「夏目漱石のパトグラフィ——」

「現存在の本性としてのことば——ラカンへの手紙——」

「人間存在におけるまなざし」

「笑いについての考察——笑いの意義の解明の試み——」

《神山四郎研究会》

(昭和 59 年 3 月卒)

「パスカルにおけるキリスト教的人間論について」

「キルケゴールにおける人間論」

《小林ポオル研究会》

(昭和 59 年 3 月卒)

「印象形成過程における欲情の働き」

「Matching-to-Sample による概念形成と学習過程の研究」

(昭和 60 年 3 月卒)

「好みの個人差に関する一試論」

(昭和 61 年 3 月卒)

「人間の木の根——人間の『理解』における感情の在り方——」

(昭和 62 年 3 月卒)

- 「人気タレントを通して見た現代社会」
- 「現代における人間関係——コンビニエンスストア現象からの考察——」
- 「ギフト・コミュニケーションにみる現代社会縁」
- 「変身を恐れない現代の若者たち——『変身願望』の必要性——」
- 「現代社会の時間制度について」
- 「DC ブランドの成功にみる今日の生活者——消費社会に対するアンチデ
ーゼ——」
- 「現代における遊びの重要性」

(平成 2 年 3 月卒)

- 「人と社会の物語の恣意性について」
- 「外国人労働者問題」
- 「家族の在り方に関する考察——子供がうまく育つために親は何をすれば
よいか——」
- 「労働」
- 「現代日本の豊かさを考える」
- 「現代の食生活について」
- 「にほんおこし——川下発想時代の原動力——」
- 「素を追い求める現代人」
- 「労働と『ひと』の『モノ』化」
- 「現代における住居空間と人間——新しい住意識の提案——」
- 「食から見た人間像」
- 「ことばの変化を考える」
- 「面白主義と現代社会」

人間科学専攻をふりかえる

(平成 3 年 3 月卒)

「『果てしない矛盾』——新しい自分を生む力——」

「東京の居住空間」

「土地柄」

「現代比較競争社会における自己の価値と人間関係」

「音の快楽」

「東京崩し：共生の時代へ——都市の再構築——」

「言葉と人間と現代社会」

「『拡がる環』——客体化をめぐる状況——」

「差異化と共同化」

「消費，言葉，そして制度——解体と生成——」

「物語と現代社会」

《二瓶恭光研究会》

(昭和 59 年 3 月卒)

「日本における労働組合の現状と課題——全日自労・建設一般をめぐって——」

「ME 化の雇用労働への影響と評価」

「終身雇用制度下における企業の弾力的対応」

「日本の労使関係の特質——集団主義——」

「日本企業における小集団活動の実態と問題点」

「日本企業の労使協議制における討議内容と討議方法——日本企業における労使協議制の在り方——」

「経営参加の問題点」

「配置転換と企業内教育」

「労働疎外——新たなる疎外の出現と日本的慣行——」

「高齢化に伴う雇用制度の改革」

「日本的労使関係の特質——企業内労使関係における一考察——」

「専門職制度の導入の実態について」

(昭和 60 年 3 月卒)

「公立学校における管理職の二面性について」

「現代日本における若い世代の労働観と就業行動」

「技術革新と人間との関係——FA 導入に伴う熟練の行方——」

「技術革新が日本的労使関係に与える影響」

「現代産業社会における『日本的経営』の有効性」

「ME 化を中心とする技術革新と労働の人間化」

「日本的賃金決定における規模間賃金格差と労使関係——業績格差の拡大
と賃金問題——」

「女子労働者の現状と対策について」

「在米日系進出企業における経営システム」

「日本的人事システム」

「企業の活性化と労使関係」

(昭和 61 年 3 月卒)

「小集団活動と日本人——小集団の日本の特質と有効性——」

「労働者派遣業」

「企業経営における合理化・効率化について」

「日本的経営の国際適応性——日本企業の人間的側面——」

「高齢化社会の雇用における政府・企業・個人のあり方と今後の展望につ
いて」

「ME 技術が障害者の雇用に及ぼす影響について」

「現代日本的労使関係の特質と再編」

人間科学専攻をふりかえる

「女性リーダーの現状と展望」

「ME 技術革新による問題——雇用労働について——」

「女子再雇用制度」

「近代合理主義のゲゼルシャフト的基礎について」

「日本の高齢者問題と定年制」

(昭和 62 年 3 月卒)

「民間企業の海外広報活動」

「生産性の定義を求めて」

「OA の実態と問題点——特に VDT 作業について——」

「働く女性をめぐる諸問題」

「職場の人間行動とストレス」

「日本的品質管理の成功」

「金融自由化の現状と展望」

「金融自由化における銀行経営のあり方」

「職場の精神衛生」

「ME 化の進展と雇用」

「環境変化と賃金制度」

「労働時間短縮への動き」

「男女雇用機会均等法の影響力について」

「終身雇用制のゆくえ」

「高齢者の雇用問題」

「ニューメディア時代の消費生活」

「日本企業の国際化と人事管理」

「変わりゆく女子労働」

(昭和 63 年 3 月卒)

「金融革新」

「アメリカ女性をめぐる社会変化」

「東京圏経済の現状と今後の課題」

「男女雇用機会均等法の影響について」

「公共部門労働者について考える」

「パートタイマーの現状と展望」

「労働時間と家庭生活」

「宿命のパラドックス——新聞社という口——」

「産業社会の変化と労働者派遣業法」

「『豊かな社会』のあとに——真の豊かさを求めて——」

「『日本企業における賃金体系の推移と動向』に関する考察」

「変化する企業経営」

(平成 元年 3 月卒)

「池袋の時代が来る」

「企業にみるサービス経済について」

「企業の海外進出に伴う人の国際化について」

「高齢化社会の現状と家庭のあり方」

「日本と韓国におけるファイン・セラミックス産業の実態」

「The 女性管理職——女性管理職になるための条件——」

「韓国経済の現状と展望」

「外国人労働者受け入れ問題について」

「働く女性と育児——より良い環境を目指して——」

「人としてのブルームス」

「国際社会における日本の労働時間短縮」

「従来の社員研修の見直しと自己啓発制度の今後」

「地域経済活性化——いま地域に何が起きているか——」

《榎田仁研究会》

(昭和 59 年 3 月卒)

「WAI を用いた Self Image の研究 I」

(昭和 60 年 3 月卒)

「WAI を用いた Self Image の研究 II」

(昭和 61 年 3 月卒)

「WAI を用いた Self Image の研究 III」

(昭和 62 年 3 月卒)

「WAI を用いた Self Image の研究 IV」

(昭和 63 年 3 月卒)

「WAI を用いた Self Image の研究 V」

(平成元年 3 月卒)

「WAI を用いた Self-Image の研究 VI」

「VIDEO 映像及び写真による表出行動とパーソナリティとの関連構造の
分析」

「自己意識と自己開示との関連性についての一考察」

「筆跡（平仮名）と書き手のパーソナリティの関連について」

「友人間における性格の類似について」

「挑戦できるパーソナリティに関する因子分析的研究」

「日本人とアメリカ人のパーソナリティ」

(平成 2 年 3 月卒)

「WAI を用いた Self Image の研究 VII」

「筆跡とパーソナリティとの関連について」

(平成 3 年 3 月卒)

「WAI を用いた Self Image の研究 VIII」

《三浦和男研究会》

(昭和 59 年 3 月卒)

「『わかる』ということ——コミュニケーションとスキーマ——」

「『不条理』存在としての人間に関する一考察」

「『日常世界の構成』にみられるパーカー社会学の視点」

「失われし意味を求めて」

(昭和 63 年 3 月卒)

「東京一極集中に対する若干の考察」

「制度としての教育の問題点」

「男と女の周辺」

「新聞の病弊——地方紙の現在から——」

「現代のディレンマ」

「日本社会における武家階層制社会構造の変遷」

「情報化社会と人間の主体性の関係」

「活字メディアと放送メディア」

「おまつり」

人間科学専攻をふりかえる

「政策福祉と臨床福祉——高齢者自身が高齢化社会の主役となるために——」

(平成元年 3 月卒)

「人間と廃墟空間」

「脳死から見る死の観点」

「『酒』の昭和史」

「社会の中の個人——世界と融合する人間像に向けて——」

「嫉妬について」

「高齢化社会と介護福祉」

「美少女時代——現代ニューエイジ論——」

「社会変動と人間」

「スーパー・マーケットの本質と日本における流通革新の考察」

「主婦と家事労働」

「核を拒否する思想と運動についての考察」

「明治の文明化が当時の知識人に与えた影響について——夏目漱石を中心として——」

「現代社会における危機と認識の変革——いかにしてこの心理的パニックをのりこえるか——」

(平成 2 年 3 月卒)

「文化記号学と消費行動」

「証券市場の暗部の考察とその危険性を探る」

「国際社会の変動と日本の役割」

「死と再生——村上春樹について——」

「現代の被差別部落」

「WHO I AM?——青年期における自己認識——」

- 「政治家の条件——善い政治を目指して——」
- 「娯楽映画作家としての黒沢明論」
- 「家族——その現状と展望——」
- 「人為的所産としての『脳死』とそれに関する日本における諸問題と現状」
- 「商品の中の、人々を『魅』きつける要素とその理由」
- 「夏目漱石の作品にみる近代人の像」
- 「現代青年の生き方について」
- 「アイデンティティ確立に於ける自我と非我とジレンマについて」
- 「国内における外国人不法就労者問題に関する考察」
- 「日本におけるキリストの教会」
- 「テレビ・ジャーナリズムの現在——その発展の可能性——」
- 「村上春樹のジョン・アーヴィング論と『ガープの世界』」
- 「脳の生物学的なはたらきとそれに関する現代の問題——脳死をいかに考えるか——」
- 「現代の日本の憂鬱」
- 「安定指向的日本人の錯覚」
- 「日本人の精神構造とマスメディア」
- 「いま、なぜ、原子力なのか」
- 「『犯罪』——その奥にひそむもの——」
- 「ひと不足時代における労働力としての高齢者」
- 「農産物輸入自由化拡大と今後の日本農業の展望」
- 「現代・過去・未来の人間社会における麻薬の問題性について」
- 「One-Quater Vision」
- 「日本人——そのコミュニケーション心理——」
- 「日本と異文化間関係学」

人間科学専攻をふりかえる

(平成 3 年 3 月卒)

「現代日本における若者気質と社会構造」

「時代が生んだアーティスト」

「新しい神々の実態——我々は宗教に何を求めるか——」

「リゾート」

《三雲夏生研究会》

(昭和 63 年 3 月卒)

「日本の『都市社会化』における会社の役割」

《三井宏隆研究会》

(昭和 59 年 3 月卒)

「日常場面における集団サイズと同調行動」

「笑いについて」

「公共空間におけるプライバシー」

「二人連れの社会空間について」

「対人魅力に関する一考察」

「女子学生の『気くばり』の実態及びそれに関する社会心理学的一考察」

「お見合の釣り書きにおける印象形成および対人魅力について——現代お見合考——」

(昭和 60 年 3 月卒)

「電車内における着席を阻止する条件に関する一考察」

「内発的動機づけに及ぼす金銭報酬の効果——認知的評価理論の立場から——」

(昭和 61 年 3 月卒)

- 「気づまりとパーソナリティ」
- 「現代大学生におけるライフスタイルの心理学的分析」
- 「テニスラケットのブランド別イメージ分析」
- 「街の風景に関する一考察——人気のある街, 人気のない街のイメージと風景のとらえられ方をさぐる——」
- 「広告と女性の性役割に関する研究」
- 「贈答行動から捉えた人間関係」
- 「人間関係の中から生ずる好き嫌いの感情についての研究」
- 「大都市周辺における過疎地域の青年意識とライフスタイル」
- 「第一印象における性格特性の認知の研究」
- 「フィールドにおける視線行動について」
- 「ネクラの構造」

(昭和 62 年 3 月卒)

- 「目撃者——対人記憶に関する研究——」
- 「海外生活に関する女子のストレス」
- 「子離れ時の母親のストレス」
- 「愛他心に及ぼす嫉妬の効果に関する研究」
- 「購買行動における一考察——ハンバーガーショップの選択について——」
- 「潜在意識の顕現について」
- 「スポーツにおける達成動機の研究」
- 「現代青年の意識構造——新人類の生きがいに関する一考察——」
- 「現代青年の性役割観について——男らしさ, 女らしさとは——」
- 「現代少女が『かわいい』というとき」
- 「個人の集団への帰属意識について」
- 「印象形成に作用するものとしての刺青」

人間科学専攻をふりかえる

(昭和 63 年 3 月卒)

「化粧の心理」

「現代少年のおしゃれ感覚」

「女性のライフサイクルと意識の変化」

「大相撲における一考察」

「異性選択における対人魅力と家庭的印象の研究」

「健康ってなんだっけ? ——健康飲料に見られる価値観の変遷——」

(平成元年 3 月卒)

「大衆における宗教信仰」

「発想法考——ブレイン・ストーミングの実験と考察——」

「絵本における性役割ステレオタイプについて」

「人間の本質的・日常的エゴイズムと恋愛におけるその効用・弊害」

「0.03 秒の罨——無意識の知覚は存在するか——」

「女性雑誌と女性をめぐる現状について」

「『都会』とは何か」

「20 代女性の瘦身願望を探る——『もっと、もっと』と痩せたがる 20 代女性の背景には——」

「現代の大学生とストレス」

「価値と同調・非同調行動について」

「女子大学生と飲酒行動」

「何のためのブランドか」

「援助行動におけるモデリングの効果」

《南 隆男研究会》

(昭和 59 年 3 月卒)

「人間理解のための鍵概念としての『態度』——社会学と社会心理学における異同——」

「リーダーシップ論の展開——構造・機能分析的視座からの一試論——」

「産業組織におけるリーダーシップ研究の動向——帰因的アプローチを中心に——」

「人間活性化と組織活性化」

「冒険と日本人——日本にベンチャー企業は可能か——」

「働く女性の現状・問題・課題——キャリア発達論からの接近——」

「日本人の異文化適応と自文化への再適応」

(昭和 60 年 3 月卒)

「高齢化社会の到来と中高年労働者」

「海外派遣者教育に望まれるもの」

「キリスト教会の世俗化——組織行動論的分析——」

「問題行動『いじめ』に関する考察——組織行動論からの接近——」

(昭和 61 年 3 月卒)

「大学生活における友人ネットワークの実証的分析」

「女性と職業——職場における男女平等獲得への道のり——」

「有夫女子のパートタイム労働——その実情・問題・課題——」

「組織開発としての CI 戦略——日本的企業文化の形成をめざして——」

(昭和 62 年 3 月卒)

「日本における『友人関係』研究の現状と課題」

「海外帰国子女の適応と教育」

人間科学専攻をふりかえる

「大学生女子における性役割意識——調査研究——」

「企業内教育訓練の理論と実際」

「『科学』とことば——人間科学方法論序説——」

(昭和 63 年 3 月卒)

「友人関係の発達とその規定要因——調査研究——」

「集団の活性度と成員間の親密度の関係に関する実証的研究」

「私の『恋愛』論——小説『ノルウェーの森』の分析をとおして——」

「男性同性愛者のマニフェステーション」

「俺は男だ!——『らしさ』を超えた男たち——」

「中高年女性と子離れ危機——調査研究——」

「帰国子女の日本への適応——調査研究——」

「スポーツ・チームの組織心理学的考察」

(平成元年 3 月卒)

「ある霊能者の体験・世界観・人生——面接を通しての事例研究——」

「高校中退の実情と高校教育の問題点」

「就職のとき——『会社訪門』のさなかに心に去来するもの——」(ヴィデ

オ・フィルム (60 分) つき)

(平成 2 年 3 月卒)

「大学生のゼミナール選択に関する諸要因についての——実証的研究——
——タテ社会を生きる現代学生——」

「大学生のゼミナール選択過程に潜む諸要因についての——実証的研究——
——期待理論からの接近——」

「大学生のゼミナール選択に関する実証分析——経済学部学生を対象とし
た場合——」

(平成 3 年 3 月卒)

- 「虚構内表現試論——小説における夢感覚の表現——」
- 「ライフコース研究序説——『発達』概念の理論的分析を中心として——」
- 「労働生活の質 (Quality of Working Life) 研究の現状と課題」
- 「男女雇用機会均等法成立過程に関する一考察」
- 「ゆがめられたスポーツ——スポーツ界の現状とその組織行動論的分析——」

《宮坂敬造研究会》

(昭和 63 年 3 月卒)

- 「現代青年の神秘ブームを探る——現代宗教風俗の一調査——」
- 「現代都市における変質した遊び——見世物としての都市・東京——」
- 「現代日本の家族像と今後の動向」
- 「『旅』の可能性——境界の時間の象徴人類学的考察と調査を通して——」
- 「異文化間コミュニケーション——海外帰国子女の適応パターンを巡って——」
- 「ゲームの諸場面における言説・ふるまいについての考察」
- 「都市の危機的状況について——その空間的考察：日欧の都市と心象の深層——」
- 「生きられる身・生かされる身——幼年期試論——」
- 「『飛騰』の試み——関係の崩壊からあらたなる関係——」
- 「海外帰国子女のリバース・ショック——不適應要因としての日本の社会構造と人間関係——」
- 「盛り場考現学——非日常性の喪失——」

人間科学専攻をふりかえる

(平成元年 3 月卒)

「憂住の都市と裕住の都市——現代の都市と農村——」

「気配論——日本文化の原初のコスモロジー——」

「現代日本における『ゆらぎ』——脳死・臓器移植問題の社会文化的背景——」

(平成 2 年 3 月卒)

「大衆社会のゆくえ——大衆社会論の系譜を通して考察する現代社会分析——」

「二つの祖国——中国残留孤児問題——」

「リミナリティによる現代社会の分析——通過儀礼としての'80年代——」

「通過儀礼としての化粧」

「象徴として見る女性の髪」

「象徴としての白——文化史的研究と人類学研究から——」

「聞き書き——『私』の子産み・子ども——」

(平成 3 年 3 月卒)

「高度消費社会における記号消費と豊かさについて——過剰な記号価値から私的な象徴価値へ——」

「都市の吸引力——近代個人の意志の表現形態としての都市——」

「現代社会と清潔志向——変質したケガレ観と社会変化——」

「身体と社会からみた健康志向の記述——現代人のコスモロジーのゆらぎの考察——」

《山本和郎研究会》

(昭和 59 年 3 月卒)

「団地コミュニティ構造の分析——I 生態心理学的方法による団地コミュ

ニティ構造の分析・II団地のイメージ構造の分析——」

「コミュニティの場としてのプレーパーク」

「大学生の新しいモラトリアム心理構造」

「児童の思いやり・共感と親の教育態度に関する実証的研究」

「大学生活の構造と発達課題の達成度」

「子どもと遊ぶ」

(昭和 60 年 3 月卒)

「現代大学生における『私』『理想の私』『若者』『おとな』イメージと心理
社会的成熟との関係」

「対人認識的アプローチにおける母子関係」

「第一印象の研究」

「大学生活におけるストレス」

「きょうだい関係が幼児期の発達に及ぼす影響」

「第 3 期主婦の生き方とアイデンティティに関する実証的研究」

(昭和 61 年 3 月卒)

「『生きがい』: そのあいまいなるものへの挑戦——大学生とのインタビューを通して——」

「後天的障害者の自己受容過程とその関わりに基づく考察」

「道路騒音とストレス」

「人があつまる街とはどのような街か」

「社会ストレスに関する研究」

「初期青春期における生活への適応に関する研究」

(昭和 62 年 3 月卒)

「ギャング・エイジの遊びは変わったのか」

人間科学専攻をふりかえる

「高校生の異文化体験——その実態と YFV プログラムへの介入——」

「大学生の依存の構造」

「慶應義塾大学 S・C (スチューデント・カウンセラーズ) 論考」

「『働く母親』をめぐる一考察」

「ソーシャル・サポート・システムの研究 I——Social Network Structure
と Social Support Appraisal の関係の調査研究——」

(昭和 63 年 3 月卒)

「マイノリティに対する偏見」

「専修学校制度と自我同一性」

「横浜市の障害児の自主訓練会のあり方——あおぞら会をめぐる——」

「女子学生の瘦身願望とストレス」

「中国からきた転校生——中国残留帰国者の現状と私達にできること——」

「リレーショナル・データベースの自然言語インターフェースに関する
研究」

(平成元年 3 月卒)

「三歳児とその母親の母子分離度に及ぼす住居環境の影響」

「保健会という窓から見た学校」

「登校拒否予防——教師の役割——」

「オリエンテーション時の情報提供に関する一考察」

「星の瞳ジェネレーション——現代少女文化の諸相——」

「大人になるということ——中学生の依存の分析をめぐる——」

(平成 2 年 3 月卒)

「コミュニティの形成へ向けての一考察——地域生活共同体の再生——」

「環状 7 号線における心理的ストレス研究」

「自己開示の深まりと一致感——尺度の構成と検討を通して——」

「幼児の生活環境と幼稚園への適応——地域環境との関わりを中心として——」

(平成 3 年 3 月卒)

「養護施設を考える」

「環状 7 号線における心理的ストレス研究」

「きょうだい関係ときょうだい観」

「父—子関係について」

「未知の情報伝達メカニズムの探究」

「夢の諸理論と段階的分析法及び今後の夢理論の方向について」